

地理学専攻

「履修上の留意点」に関する解説

ここでは、便覧の「学部事項 IV 科目配当表及び履修上の留意点 1. 必修科目について 地理学専攻」(pp.78~82)のうち、「履修上の留意点」(pp.80~82)について、特に留意してもらいたい点を中心に解説を加えます。矢印(→)の部分が解説になります。

[大前提の留意点] 地理学専攻における科目履修について説明する前に、大学での履修にあたっては、以下の留意点が大前提であることを、予め喚起しておきます。

- ① 便覧は大学との契約に相当します。ですから、これをよく熟読し、理解して下さい。
- ② 履修にあたっては、シラバスをよく読んで目標・内容・注意事項などをよく理解するとともに、問題意識を持って受講して下さい。
→シラバスを読むことは当たり前です。ここでは、「何を学びたいのか」「何に関心があるのか」などの「問題意識を持って」という部分に期待しています。
- ③ 上記以外の連絡は、掲示板、Oh-o! Meiji システム、あるいは専攻 HP (ホームページ) によってなされますので、常に自らの責任で確認し、行動して下さい。
→これは、履修に関する連絡と、その受けとめ方の基本です。少なくとも、他人の情報を「鵜呑みにして」行動することだけは避けてほしい。
- ④ 卒業所要単位に示されている必修・選択科目や単位数は、あくまで最低限必要であるという目安にすぎません。各学年や 4 年間を通じた履修にあたっては、下記に示したカリキュラムのねらいや見取り図を踏まえて、自ら学習・研究したい内容や方向との関連を常に意識して、計画的に履修して下さい。
→特に、後半の部分、つまり主体的かつ計画的な履修を心掛けて下さい。

1 1~4 年次までのカリキュラムの見取り図

- (ア) 外国語および学部間共通外国語：履修にあたっては、便覧「学部次項 II 履修 5. 履修科目」の当該箇所を熟読して下さい。
→外国語およびウェルネス科目は、卒業に必要な必修科目です。配当されている 1・2 年次において、しっかりと修得するようにして下さい。

(イ) 専門科目：地理学専攻のカリキュラム設計と 4 年間の科目履修モデル

- ① カリキュラム設計の目標：卒業論文を 4 年間の学習・研究の集大成として執筆できることで

す。以下、カリキュラムの設計と科目群については、便覧の p. 80 に掲載されている「**地理学専攻履修モデル表**」に即して説明します。

→適切な指導を受けつつも、卒論を自分の力で納得のいく形で仕上げ・執筆できることが目標です。

- ② カリキュラム設計： 上記の目標を達成するために、地理学専攻のカリキュラムは、研究法・演習科目群を中核として、3つの必修科目群（研究法・演習科目、講義科目、実習科目）および専攻選択科目群の4つの科目群から成り立っています。

地理学専攻の学習のモットーは、「歩く・観る・考える」です。それぞれの科目群で、この3つの要素を常に心がけるようにして下さい。

[専門科目群の説明]

- (ア) 演習科目群（必修）： 地理学という学問への導入を行う**基礎演習（地理学）A・B**、地理学で使う具体的な手法や技術を学ぶ**地理学研究法 A・B**（駿河台キャンパス開講）、卒論に向けた専門的な基礎を学ぶとともに、研究法で身につけた技術に基づいて自ら取得したオリジナルデータを分析し検討することをトレーニングする**演習 I（地理学）A・B**、これらの集大成として、各自のテーマに即して適切な指導の下に研究をすすめる**卒業論文 I・II**の8科目となります。学年配当に従うとともに、各科目の目標をしっかりと身に付けて、卒業論文の研究に進むことが肝要です。

→演習科目群（必修）は地理学専攻のカリキュラムの中核です。いずれも、10人前後の少人数で実施され、私たちスタッフがもっと重視している科目群です。卒業論文 I・II は別として、3年次までの演習科目群では、共に学ぶ協調性が重要となります。ですから、学年配当に従って進んでほしいところです。

- (イ) 講義科目群（必修）： 研究の方法や手法はあくまで手段であり、何をどう学び、何をどのように研究するかを主体的に判断することが求められます。そして学習・研究の問題意識を醸成し、卒業論文の方向付けをするためには、これまでの学問分野の蓄積について大筋で理解することが重要です。ここでは、人文地理学・自然地理学・地誌学の3分野の概論が用意されています。基礎的な科目なので、必修選択の如何を問わず、3分野6科目をすべて履修することを薦めます。

→「必修選択の如何を問わず」とは、カリキュラム上は便覧 p.78 にあるように「左記科目群から2単位を修得することが必要」とあるのですが、3分野の B の科目すべてを履修して下さい、

ということです。

- (㉞) 実習科目群 (必修)： これはフィールドワークであり、地理学実習 I～IVのすべてに参加する必要があります。必修科目に付随する実習や演習でゼミ生が企画する現地調査のほか、毎月定期的実施される日帰り実習も盛りだくさんな内容が用意されていますので、積極的に参加して下さい。

→この部分については、ガイダンス資料として配付した「履修上の留意点」の追加説明に詳細に説明されていますので、そちらの説明を熟読して下さい。

- (㉟) 専攻選択科目群： これは層の性格から、大きく2つに分かれます。1つは地理学の研究全般に関係する、演習科目 (必修) に近い内容の講義 (実習・技法系科目) です。これには、1・2年次に配当されている地図の読図と作成方法を学ぶ地図学とコンピュータを使用した統計的手法を学ぶ地域統計学、3・4年次に配当されている測量の基礎を学ぶ測量学、4年次配当されている課題研究を専門的にさらに深める演習IIA・Bがあります。

→この技法系科目では、地図学と地域統計学は駿河台キャンパスでは開講されませんので、1・2年次に是非とも履修してほしい科目です。

これに対して2つ目は、講義科目群 (必修) に近いもので、より専門的に学習・研究する演習・卒業論文に関係する科目群です。講義科目群 (必修) と同じく自然・人文・地誌の3分野、20科目が用意されています。3年次になると演習 (ゼミ) に所属し、専門的な分野について学んでいきますが、その準備のためにも、2年次履修できるようになっています。それぞれの分野に関連する科目群を履修するのは当然のこととして、地理学ではすべての分野の素養が求められることが多いので、全分野をまんべんなく履修しておくことが望ましいと思います。

→講義系科目では、特に2年次から履修できるようになっている科目群を積極的に履修して下さい。担当者は、いずれも演習 (ゼミ) の担当者でもあり、2年次秋学期のゼミの振り分けの参考になります。3年次の演習 (ゼミ) における専門的な分野について学びのための準備にもなります。

2 専門科目群に関する特記事項

(1) 地理学実習

→「履修上の留意点」の追加説明に詳細に説明されていますので、そちらの説明を熟読して下さい。

い。

- ① シラバスの当該箇所を熟読して下さい。
- ② 1年次の4月中・下旬の週末に、大学セミナーハウスを使って1泊2日のオリエンテーション実習（地理学実習Ⅰの日数に1日分、参入されます）が実施されますので、必ず出席して下さい。
- ③ 地理学実習Ⅰ～Ⅳは所定の日数有情の実習に参加し、それぞれのレポートに合格した場合に、所定の単位が認められます。
- ④ 地理学実習が単位に必要な日数として認定されているかどうかについて、常に気を配るようにして下さい。5月上旬を目処に地理学実習履修状況が掲示されます。
- ⑤ 地理学実習のおおよその年間計画が5月に掲示されます。この計画を参照の上、また地理学実習履修状況を勘案して、各年次の地理学実習への参加を計画的に行って下さい。

→以下の(4)までについては、1年の秋学期あたりに、改めてゆっくりと熟読してみてください。わからないことがあれば、基礎演習の担当者に質問しても、構いません。

(2) 演習Ⅰ（地理学）A・B

- ① シラバスの当該箇所を熟読して下さい。
- ② 上述のカリキュラム設計において演習Ⅰ（地理学）A・Bは地理学研究法と並んで、卒業論文執筆に向けて要の位置にある科目です。
- ③ 演習Ⅰ（地理学）の振り分けは、別途求める履修希望申請届に基づいて、2年次の秋学期に行います。2年次の11月下旬までに履修して学習を進めるとともに、関心のある分野・テーマに関する基礎学習をして、各自が学習・研究した内容を明確にしておいて下さい。
- ④ 2年次の春休みに演習担当者から課題が出される場合がありますので、掲示に注意するとともに、これに従ってください。

(3) 卒業論文

- ① シラバスの当該箇所を熟読して下さい。
- ② 卒業論文の作成には、適切な論文指導が不可欠です。卒業論文の論文指導に必ず出席してください。論文指導の出席状況が悪い場合には、卒業論文の成績が不可と判定されることがあります。
- ③ 卒業論文の執筆に際しては、論文指導の授業時の諸注意および専攻HPに掲載される「**地理学専攻卒業論文作成上の注意**」を熟読し、それを遵守してください。
- ④ 成績は、卒業論文それ自体と、1月下旬から2月上旬に実施される面接試験（詳細は卒業論文提出後に掲示）と併せて総合的に判断します。

(4) 4年間の履修すべき科目チェックシート

- ① 専攻としてチェックシートは提示しませんので、情景の4年間の科目履修モデル表、さらには上記の専門科目群に関する特記事項に従って、自らの責任でチェックして下さい。

(5) 資格課程との関連において注意すべき事項

→「資格課程案内および資格課程シラバス」を熟読すること、これが基本です。

- ① この便覧の「資格課程」の当該項目を熟読して下さい。
- ② 履修方法や、各課程における専攻科目の読み替えなどは、ガイダンスで配布される資格課程案内および資格課程シラバスに記載されていますので、これらを熟読し、自らの責任で履修して下さい。